

# 電波時計 取扱説明書

## (報時付掛時計)

### ～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して正しい時刻に自動修正します
- 毎正時にメロディが奏で電子音の数で時刻をお知らせします

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

製造元  
販売元

**リズム時計工業株式会社**

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12

<http://www.rhythm.co.jp>

## もくじ

1. 安全にお使いいただくために、はじめにお読みください	2
2. 電池のご注意（電池の正しい使いかた）	3
3. 電池・時計の廃棄	3
4. お手入れについて	3
5. 電波時計について	4
・電波時計とは	・海外でのご使用について
・標準電波とは	・電波の受信範囲について
・標準電波の送信停止について	・電波を受信しにくい環境
6. 各部の名称と役割	5
7. ご使用方法	6
標準電波—受信の流れ	7
報時機能の設定	7
明暗センサーのはたらき	7
時計の掛けかた	8
8. 標準電波を受信できない場合	9
手動での時刻合わせ…受信できないときや任意の時刻に合わせるとき	9
9. 電池の交換について	10
10. おもな製品仕様	10
アフターサービスについて	裏表紙
お問い合わせ先	裏表紙

## 付属品


電池 3個      木ねじ（大） 1個      木ねじ（小） 1個      振り子 1個  
取扱説明書 本書      保証書 1枚

# 1. 安全にお使いいただくために、はじめにお読みください


ここに示した事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

- 図記号の説明
- ⊘ 禁止（してはいけないこと）を示しています。
  - ❗ 指示する行為を必ず守ることを示しています。


## **警告** 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

 誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置**か**ない  
必ず守る

万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。


 電池の液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る  
**禁止**


- 電池に傷を付けない。
- 電池を分解しない。
- 電池を充電しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を加熱しない。
- 電池を火の中に入れない。


 電池から液漏れが起きてしまったときは、素手でさわらない


- 目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。
- アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。
- 電池を外して漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。


## **注意** 傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

 浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になる所では使わない  
さびの発生や故障の原因になります。

 分解や改造をしない  
けがや故障の原因になります。  
分解禁止

 強い振動や衝撃を与えない  
故障や破損の原因になります。  
必ず守る

 めれた手でさわらない  
さびの発生や故障の原因になります。

 下記のような場所では使わない  
**禁止**

精度の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 暖房機器などの乾燥した風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気を発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- プール、温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質をすることがあります。

## 2. 電池のご注意（電池の正しい使いかた）

### 電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス（+）、マイナス（-）を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手が届かない所に置く。

### 電池の種類について

- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

### 電池の寿命について

- 付属の電池は、工場を出荷するときに入れてありますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。

## 3. 電池・時計の廃棄

- お住まいの地区自治体の指定に従ってください。
- 廃棄するときは電池と時計を分別してください。

## 4. お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

# 5. 電波時計について

## 電波時計とは

クォーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な時刻に修正する時計です。

## 標準電波とは

標準電波 (JJY) は、日本標準時 (JST) をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。(http://jjy.nict.go.jp)

## 標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については情報通信研究機構のホームページをご覧ください。

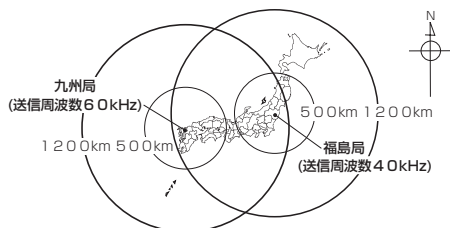
## 海外でのご使用について

日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

海外でのご使用はお勧めできません。

## 電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

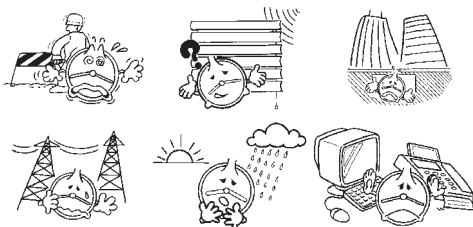


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

## 電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

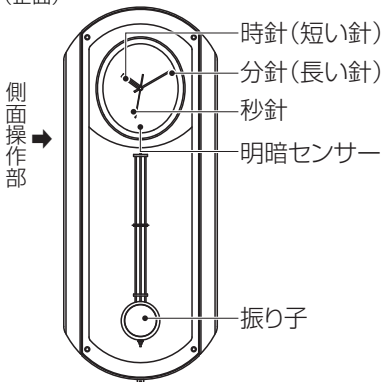
- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下、ビルの谷間、ビルの中など
- 高压線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



## 6. 各部の名称と役割

○図は操作説明用ですので、実際のものとは異なることがあります。

(正面)

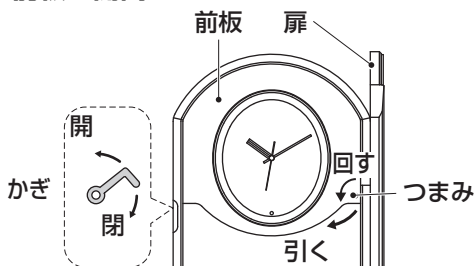


振り止め  
時計の傾きを防ぐため、掛けた後に木ねじ(小)で固定します。

### 針の動き

時計・分針:10秒に1回動きまわります。  
秒針:滑らかな1秒ステップで動きまわります。  
※自動受信で時刻を修正するときは、早送りで動いたり、停止したりすることがあります。

### 前板の開閉



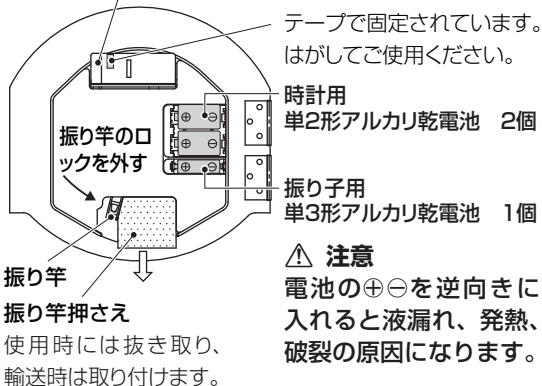
(前板の裏面)



### アンテナ角度の微調整

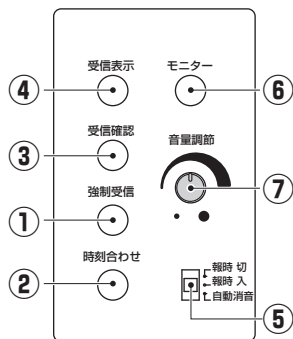
図示は最大に傾けた状態です。

△注意 アンテナを無理に曲げると故障や破損の原因となります。



△注意  
電池の⊕⊖を逆向きに入れると液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

(右側面操作部)



- ①強制受信 電池を入れた直後に押す
- ②時刻合わせ 手で時刻を合わせるときに使用  
**不用意に押すと時刻が変わります**
- ③受信確認 押すと受信結果を受信表示ランプでお知らせします
- ④受信表示ランプ 受信状態や受信結果を表示  
受信結果 5秒間点灯: 受信成功  
5回点滅 : 受信失敗
- ⑤報時スイッチ 報時のON/OFF切り替え
- ⑥モニター 報時音の試聴
- ⑦音量調節 報時音の音量調節

## 7. ご使用方法

手動で時刻を合わせる場合は、**手動での時刻合わせ** (P.9) を参照してください。

◎窓際など電波の受信しやすい所でお使いください。

- ① 操作中に大きな音が鳴らないように音量を最小にする
- ② かぎを外して扉を開ける
- ③ 前板のつまみを左に回して、前板を手前に引き機械部を出す
- ④ 振り竿押さえを引き抜く
- ⑤ 振り竿を図示矢印方向に押しロックを解除する
- ⑥ 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れる  
電池は、時計用と振り子用に分かれています。
- ⑦ **強制受信を押す** **標準電波—受信の流れ** (P.7)参照

受信表示ランプが点灯し受信を開始します。

針は止まったままですが、故障ではありません。受信が終わると針が早送りで時刻位置に移動します。

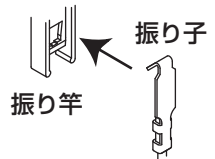
※電池を入れた後は、必ず強制受信ボタンを押してください。

※受信中はボタン操作をしないでください。

- ⑧ 前板を閉じてつまみを右に回して固定する
- ⑨ 扉を閉めてかぎを掛ける
- ⑩ **時計の掛けかた** (P.8)に従って時計を確実に掛ける
- ⑪ 振り子を取り付ける

扉のかぎを外して扉を開けて振り子を掛けて振り子をゆらし  
て扉を閉じてかぎを掛ける。

振り子の取り付け



- ⑫ 15分待つて**受信確認**を押して**受信表示ランプ**で結果を確認する

受信ができた場合 :5秒間点灯

受信ができなかった場合:5秒間点滅

受信できないときは、「10. 標準電波を受信できない場合」(P.10)をご覧ください。

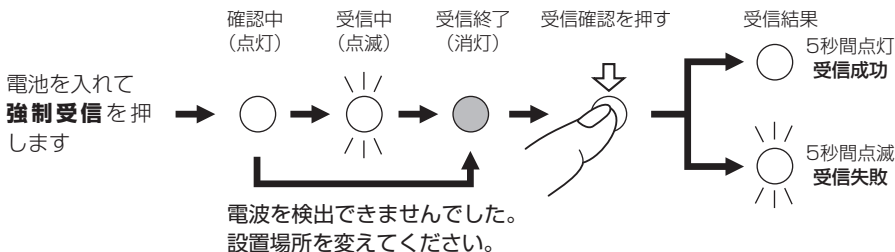
※受信に失敗した場合、表示されている時刻は正確ではありません。

- ◎ **報時機能を設定してお使いください。** **報時機能の設定** (P.7)参照。

## 標準電波一受信の流れ

受信状態を受信表示ランプの点灯、点滅、消灯でお知らせします。

受信は2～15分間行います。



## 報時機能の設定

報時機能は、毎正時に時刻に対応したメロディを奏で、その後に電子音の数で時刻を知らせます。時刻ごとのメロディは、時計裏面に表示してあります。

### ■ 報時スイッチの設定

**報時切** : 報時をしない。

**報時入** : 常に報時する。

**自動消音** : 明暗センサーと連動して、  
明るい所で報時し、暗く  
なると報時を停止する。

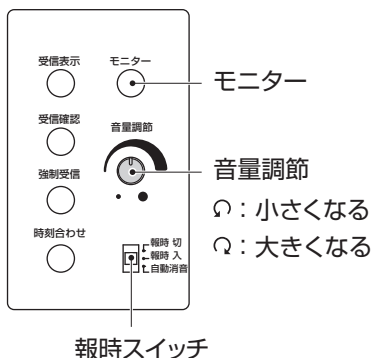
### ■ 音量の調節

モニターを押して、報時している間に音量を調節します。

### ■ 報時音の試聴のしかた

モニターを押すと、メロディを奏で時刻に対応した数だけ電子音が鳴ります。報時は時計が指している時刻に対応します。例. 3時35分のときは3時の報時音が鳴ります。

※ 電池を入れた直後、**強制受信**を押した直後、時針・分針が早送りしているときなど、受信状態のときにモニターボタンを押した場合、時刻に対応したメロディを奏でないことがあります。受信が終了すれば正常に戻ります。  
※ 手動で時刻合わせをして正時、たとえば10時ちょうどにしても報時をしません。



## 明暗センサーのはたらき

明暗センサーが暗いと判別した場合、秒針は12時位置に到達したところで停止します。報時スイッチが自動消音のときは、報時を停止します。

昼間や夜間照明時でも明るさが不足するとセンサーが反応します。



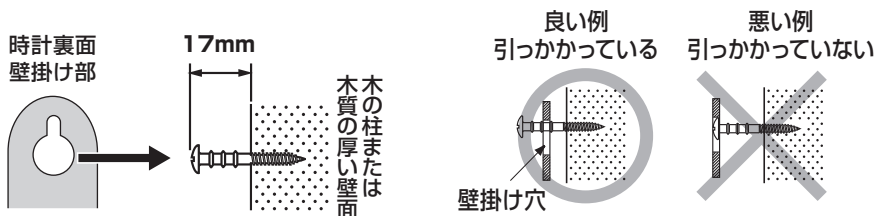
## 時計の掛けかた

**注意** 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、掛け具（木ねじ）に壁掛け部がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- 壁掛け部以外に掛けないでください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。

### 木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



### その他の壁面の場合

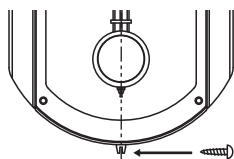
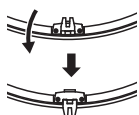
- 石こうボードやコンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

#### ■振れ止めを固定してください。

固定しないと扉の開閉するときなど時計が傾きます。

- ① 時計下部にある振れ止めを外側に出す。
- ② 静止させた振り子の先端と振れ止めを合わせる。

(時計裏面下部)

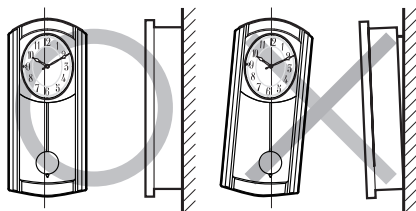


- ③ 木ねじ（小）で振れ止めを固定する。

#### ■時計が傾いていると振り子が正常に動かなくなります。

良い例

悪い例



## 8. 標準電波を受信できない場合

### ●朝までそのままにしておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくことで受信できる可能性が高くなります。

### ●場所を変える／受信をやり直す

電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして**強制受信**を押して再度受信を行ってください。

※アンテナの角度を調整することができます。

### ●時刻を合わせて使用する

ベランダなど屋外で電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。

## 手動での時刻合わせ…受信できないときや任意の時刻に合わせてとき

手動で時刻合わせをすると時間精度は、クォーツ精度になります。

※**時刻合わせ**を離しているのに、針が早送りで動いている場合は、通常の針の動きになってから操作をしてください。

※電波の受信に成功すると時刻を自動修正します。

### 操作

○**時刻合わせ**を押してすぐに離すと1分進みます。

○**時刻合わせ**を押し続けると早送りします。このとき秒針は停止します。

### 秒針の動きについて

**時刻合わせ**を離したとき、ゼロ秒に設定されます。秒針が早送りで動いているときに、**時刻合わせ**を離すと、そのまま早送りで現在時刻の秒位置まで動きます。

## 9. 電池の交換について

時計が動いていても1年に1回定期的に電池を交換してください。

電池の残量が少なくなると、時針・分針・秒針が反時計回りに動いたり、早送りで針が動いたままになることがあります。特に、**強制受信**を押したときや自動受信したときに発生しやすくなります。このようなときは、すべての電池を新しい電池に交換してください。

### **注意** 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

電池からの液漏れにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。

電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことをお守りください。

●時計が停止したときは、速やかに新しい電池に交換するか、電池を取り出す。

●古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。



## 10. おもな製品仕様

使用温度範囲 -10～50℃ \*結露しないこと

時間精度 標準電波受信成功直後の表示精度 秒針 ±1秒 時分針 目盛りに対して±3度  
標準電波を受信しない場合 平均月差±20秒 (温度が5～35℃のときのクォーツ精度)

使用電池 単2形アルカリ乾電池 JIS規格 LR14 1.5V 2個  
単3形アルカリ乾電池 JIS規格 LR6 1.5V 1個

電池寿命 約1年 \*標準電波の受信に成功し、報時を音量中位で17回/日使用したとき。

報時機能 毎正時にメロディを奏で、時刻の数だけ電子音が鳴る

報時精度 表示時刻に対して±1秒

報時音 電子音

入/切/自動消音 スライドスイッチ \*自動消音: 明暗センサーと連動して暗所停止

音量調節 ロータリー式ボリューム

報時音モニター あり

暗所秒針停止 明暗センサーと連動して秒針が12時位置に停止

電波受信機能 標準電波受信による時刻修正

受信局 福島局/九州局 自動選択

受信ON/OFF なし

受信回数 最少 1日1回 最多 1日12回

標準電波受信開始時刻条件

回数

開始時刻

- |                       |         |   |
|-----------------------|---------|---|
| ▶ 受信成功から72時間以内の場合     | 1～3回/日  | AM 2:16:40、AM 3:16:40、AM 4:16:40        |
| ▶ 連続72時間以上受信に失敗している場合 | } 12回/日 | 奇数時の16分40秒<br>例 AM 1:16:40、AM 3:16:40など |
| ▶ 初めから受信に失敗している場合     |         |   |
| ▶ 手動で時刻合わせをした場合       |         |   |

## アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

### ●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間を基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただくことがあります。

### ●修理可能期間について

無償保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有償での修理が可能です。ただし、修理内容や送料などにより、修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

### ●転居または贈答品の場合

お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

This product is intended for the Japanese market.

Service and technical support for this product are available only within Japan.

### お問い合わせ先

(フリーダイヤル)  
**お客様相談室 0120-557-005**  
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

アフターサービスなどについてご不明なことがありましたらお客様相談室にお問い合わせください。  
**お問い合わせに際しては、製品番号(型番)「4MN475」をお伝えください。**

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。  
本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなら責任を負いかねますので、ご了承ください。

M125-BXXX  
(Y1405)